

来賓の方々、先生方、同級生のみなさん、こんばんは。高坂州と申します。本日はここで TLP 修了式のスピーチをさせていただけることとなり、とても嬉しく思います。
特に先生方におかれましては、並々ならぬ感謝の気持ちをお伝え申し上げます。

私たちは1年半のプログラムの中で中国語を勉強してきました。しかし、今は英語の重要性が叫ばれる時代。事実、私たちは英語を使うことで、世界中のあらゆる情報を手に入れることができます。英語のみに注力するのではなく、敢えて1から中国語を学ぶ意義はどこにあるのでしょうか？

まずは、それぞれの言語に特有なニュアンスの存在。ミスコミュニケーションの多くはこれに起因するものです。

一つ例を挙げてみましょう。2013年3月に施行された「中華人民共和国著作権法実施条例」第4条・7項には、著作権法により保護される対象として「雑技、手品、曲芸」という項目があります。

これを我々日本人が理解する過程で、英語への翻訳、そして日本語への再翻訳を経ると仮定しましょう。

まず英語に訳した時点で雑技と曲芸は同じ「アクロバット」として扱われます。手品に至っては「魔法」になってしまいます。

この点に関して、日本や米国の著作権法には、例えば日本の著作権法第10条1項9号にある通り、「舞踊または無言劇の著作物」という括りは存在するものの、包括的な言及に留まっており、意思伝達の齟齬の可能性が生じていることが伺えます。

背景知識があれば問題を軽減することが可能かもしれませんが、「手品」など、我々からすれば身近な概念であってもこのような事態が起こりうるのに、より複雑な専門用語等を介する場面では、さらなる混乱を招いても不思議ではありません。

このように、媒介言語としての英語には限界があることが分かります。自分の意思を正確に伝えるのは、翻訳・再翻訳のかかかっていない状態が不可欠です。もちろん、そこにはより深い文化レベルでの理解も必要です。中国人とコミュニケーションする上で、中国語を学ぶという選択肢は価値のあるものだと言えるでしょう。

中国語を学ぶ意義を理解したところで、なぜ TLP で学ぶのかという点に歩を進めましょう。自学自習でも中国語は勉強できそうなものですが、それでも TLP を選ぶ理由とは何でしょうか。

TLP では、徹底した基礎固めをします。半強制的な(?) 週 4~5 回の授業は、初めこそ成長を感じられずに絶望の淵に立たされることもあれ、最後には驚くほど自分の実力が伸びていることを実感します。また、研修で中国語圏を訪れる機会を提供していただけたことも、とても貴重でありがたいことだと感じています。そしてなによりも、共に学び合える仲間存在は重要でした。励まし合い助け合い、切磋琢磨した日々を忘れることは無いでしょう。

入学当初と比べ、中国は私にとってより身近なものになりました。言語だけでなく、実際に現地に足を運ぶことで、ニュースの画面の向こうの「中国」という存在に、ほんの少しだけですが、近づけたような気がします。しかし、知れば知ろうとするほど、その途方もなく巨大な全貌に圧倒され、手が届かずにいることも、また事実です。これは私が「中国語を学ぶ」から「中国語で学ぶ」ことへの転換点に、ようやく辿り着いたということなのかもしれません。

折しも、今年 2018 年は日中平和友好条約締結から 40 周年という節目の年です。表面的な解釈や知識の先を越えていく。このような視点は、TLP プログラムを通じて初めて得られたものだと感じています。

今後自分が生きていく中で、TLP での経験は常に思い起こされ、人生の荒波の中で羅針盤(指南針)のように、進むべき先を「指南」してくれるものになると、確信しています。